

平成26年度

# 事業年報

千葉県市原健康福祉センター  
(市原保健所)

## はじめに

日本は、世界有数の長寿国です。2014年の日本人女性の平均寿命は86.83歳、男性は80.50歳で、いずれも過去最高を更新しました。女性は3年連続で世界一、男性は前年の世界4位から3位に上昇しました。女性は心疾患や脳血管疾患、男性はがんや肺炎の死亡状況が改善したことが大きいといわれています。また、医療技術の進歩や健康意識の高まりが背景にあるとされています。今後の健康づくりについては、健康上の問題がなく毎日が送れる期間である健康寿命<sup>(注1)</sup>を延伸することにも重点が置かれます。

健康福祉センター（保健所）は、公衆衛生の第一線の機関として、感染症対策や食中毒対策等の健康危機管理事業に加え、「地域の健康づくり」も主要事業として取り組んでいます。その中でも地域職域連携推進事業は、目的に、地域保健と職域保健が連携した生活習慣病予防と健康寿命の延伸があげられており、関係者が協力して健康課題の解決に向けて努力しています。テーマについては、26年度から3年計画で、「たばこ対策」、「がん検診受診率向上」及び「スマート・ライフ・プロジェクト<sup>(注2)</sup>の推進」を取り上げています。

平成26年度の動きとして、「難病の患者に対する医療等に関する法律」と「児童福祉法の一部を改正する法律」が平成27年1月1日から施行され、対象となる疾患が拡充されるなど、難病と小児慢性特定疾病の医療費助成が新制度に変わりました。

また、感染症領域では、鳥インフルエンザH7N9に加え、新たにエボラ出血熱、中東呼吸器症候群（middle east respiratory syndrome: MERS）などの感染症が海外にて発生しました。航空機の発達により、短時間にかつ容易に世界中のどこへもひとの移動が可能になった現在では、他国のこととして決して看過することはできず、「もし、管内で発病者が出た場合」を想定し、引き続いて対策強化に努めてまいります。

この事業年報は、平成26年度の市原健康福祉センター（保健所）の事業実績を取りまとめたものです。巻末には、平成26年度発行の保健所だよりも掲載しています。地域の資料として御活用いただくと共に、センター（保健所）業務に御理解を賜れば幸いに存じます。

今後とも皆様方からの御支援をよろしくお願い申し上げます。

平成27年12月

千葉県市原健康福祉センター（市原保健所）長 杉戸 一寿

注1：健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されます。

注2：スマートライフプロジェクトとは、「健康寿命をのばしましょう。」をスローガンに、国民全体が人生の最後まで元気に健康で楽しく毎日が送れることを目標とした国民運動です。